



萬葉集卷第一

春雜歌

雜歌七首

詠霞三首

詠花二十首

詠雨一首

詠煙一首

歎舊二首

詠鳥二十四首

詠柳八首

詠月三首

詠川一首

野遊四首

權逢一首



旋頭歌二首

譬喻歌一首

春相聞

相聞七首

寄鳥二首

寄花九首

寄霜一首

寄霞六首

寄雨四首

寄草三首

寄松一首

寄雲一首

贈蘊一首

悲別一首

問答十一首

夏雜歌

詠鳥二十七首

詠蟬一首

詠榛一首

詠花十首

問答二首

譬喻一首

夏相聞

寄鳥三首

寄蟬一首

寄草四首

寄花七首

寄露一首

寄日一首

秋雜歌

七夕九十八首

詠花三十四首

詠鴈三首

遊羣十首

詠鹿鳴十六首

詠蟬一首

詠蟋蟀三首

詠蝦五首

詠鳥二首

詠露九首

詠山一首

詠黃葉四十一首

詠水田三首

詠河一首

詠月七首

詠風三首

詠芳一首

詠雨四首

詠霜一首

秋相聞

相聞五首

寄水田八首

寄露八首

寄風二首

寄雨二首

寄蟋蟀一首

寄蝦一首

寄鴈一首

寄鹿二首

寄鶴一首

寄草一首

寄花二十三首

寄山一首

寄黃葉三首

寄月三首

寄夜三首

寄衣一首

問答四首

譬喻歌一首

旋頭歌二首

冬雜歌

雜歌四首

詠雪九首

詠花五首

詠露一首

詠黃葉一首

月一首

冬相聞

相聞二首

寄露一首

寄霜一首

寄雪十二首

寄花一首

寄夜一首

春雜歌

夕方之天芳山此夕霞霏霏春立下

卷向之檜原丹立流春霞霽之思者名積米八

方

古人之殖兼叔枝霞霏霏春者來良之

子等我手乎卷向山丹春去者木葉凌而霞霏

霏

玉蜻夕去來者佐豆人之弓月我高荷霞霏霏

古今集卷十

五

今朝去而明日者來牟等云子鹿丹且妻山丹

霞霏霽

子等名丹開之宜朝妻之片山木之爾霞多奈

引

右柿本朝臣人麿歌集出

詠鳥

打霏春立奴良志吾門之柳乃字禮爾鶯鳴都
梅花開有崗邊爾家居者乏毛不有鶯之音

春霞流共爾青柳之枝啄持而鶯鳴毛

吾瀨子乎莫越山能喚子鳥君喚變瀨夜之不

深刁爾

朝井代爾來鳴杲鳥汝谷文君丹戀八時不終

鳴

冬隱春去來之足比木乃山二文野二文鶯鳴

裳

紫之根延橫野之春野庭君乎懸管鶯名雲

ハルサ ハ ツマヲモトムト 春之去者妻乎求等鸞之木末乎傳鳴乍水名
カスカナルハ カノ ヤミユ サホノ 春日有羽買之山從猿帆之内敝鳴往成者
ヨフコ トリ 喚子鳥

コタヘヌニ ナ ヨヒトヨミソ ヨフコ トリサ 不答爾勿喚動曾喚子鳥佐保乃山邊乎上下

二

アツサユミハルヤマチカクイヘ井 シテツキテ キクラ ム 梓弓春山近家居之續而聞良牟鸞之音

ウチナヒキハルサリクレハ シノ ヌニ ヲハ ウチフレテ 打靡春去來者小竹之米丹尾羽打觸而鸞鳴

毛

朝霧爾之怒怒爾所沾而喚子鳥三船山從喧

渡所見

ウチナヒキハルサリクレハ シカス カニアマクモキリアヒユキハ 打靡春去來者然為釐天雲霧相雪者零管

ウチナヒキハルサリクレハ ツミモテキミニ ミセム トトレハ 梅花零覆雪乎畏持君爾令見跡取者消管

ウチナヒキハルサリクレハ シカス カニシラユキニハニ 梅花咲落過奴然為釐白雪庭爾零重管

イマサラニユキフラメ ヤモ カケロフノ ヌユル 今更雪零目八方蜻火之燎留春部常成西物

乎

カセマシリユキハ フリッ、シカス カニカスミタ 風交雪者零乍然為釐霞田葉引春去爾來

山際爾鸞喧而打靡春跡雖念雪落布沼
峯上爾零置雪師風之共此間散良思春者雖
有

右一首筑波山作

為君山田之澤惠具採跡雪消之水爾裳裾所

沾

梅枝爾鳴而移徙鸞之翼白妙爾沫雪曾落
山高三零來雪乎梅花落鴨來跡念鶴鴨

一云梅花開香裳落跡

除雪而梅莫戀足曳之山斤就而家居為流若

右二首問答

詠霞

昨日社年者極之賀春霞春日山爾速立爾來
寒過暖來良思朝烏指滓鹿能山爾霞輕引
鷺之春成良思春日山霞棚引夜目見侶

詠柳

霜十冬柳者見人之蘊可為目生來鴨

淺綠染懸有跡見左右二春楊者目生來鴨

山際爾雪者零管然為我二此河揚波毛延爾

家留可聞

山際之雪不消有乎水飯合川之副者目生來鴨

朝且吾見柳鶯之來居而應鳴森爾早奈禮

青柳之絲乃細紗春風爾不亂伊間爾令視于

裳欲得

百磯城大宮人之蘊有垂柳者雖見不飽鴨

梅花取持見者吾屋前之柳乃眉師所念可聞

諫花

鶯之木傳梅乃移者櫻花之時片設奴

櫻花時者雖不過見人之戀盛常今之將落

我刺柳絲乎吹亂風爾加妹之梅乃散覽

每年梅者開友空蟬之世人君羊蹄春無有來

打細爾鳥者雖不喫繩延守卷欲寸梅花鴨

馬並而高山部乎白妙丹令艷色有者梅花
ウマナメテ、タカキヤニヘ、シ、レロタヘニ、ニ、ホハレ、タルハ、ウメノハナナ、
 ハナサキテ、三、ハ、カラ予、ト、モ、ナカキケニオモホユルカモ、イ、オキノ、ハナ、
 花咲而實者不成登裳長氣所念鴨山振之花
ノ、ト、カハノ、ミナソコサヘニ、テ、ル、マ、テ、ニ、三、カサノ、ヤ、マ、ハ、サ、キ、ニ、ケ、ル、
 能登河之水底并爾光及爾三笠之山者咲來
カモ

鴨

見雪者未冬有然為解春霞立梅者散乍
ユキミレハ、イ、タ、フ、ユ、ナ、リ、シ、カ、ス、カ、ニ、ハ、ル、カ、ス、ミ、タ、キ、ツ、メ、ハ、チ、リ、ツ、

去年咲之又木今開徒土哉將墮見人名四
コ、ゾ、サ、キ、シ、ヒ、サ、キ、イ、マ、サ、ク、イ、タ、ツ、ラ、ニ、ツ、チ、ニ、ヤ、オ、チ、ム、ミ、ル、ヒ、ト、ナ、レ、ニ、
 ア、ヒ、ヒ、キ、ノ、セ、ノ、ニ、テ、ラ、ス、サ、ク、ラ、ハ、ナ、コ、ノ、ハ、ル、サ、メ、ニ、チ、リ、ユ、カ、ム、カ、モ、

足日木之山間照櫻花是春雨爾散去鴨
ウチナヒキハルサリクラレ、ヤ、ノ、ハ、ノ、ヒ、サ、キ、ノ、ス、エ、ノ、サ、キ、ユ、ク、ミ、レ、ハ、

打麩春避來之山際最木未之咲往見者

春鷄鳴高圓邊丹櫻花散流歷見人毛我裳
キ、メ、ナ、ク、タ、カ、ミ、リ、ヘ、ニ、サ、ク、ラ、ハ、ナ、キ、リ、ナ、カ、ラ、フ、ル、ミ、ル、ヒ、ト、モ、カ、モ、

阿保山之佐宿木花者今日毛鴨散亂見人無
ア、ホ、ヤ、マ、ノ、サ、キ、ノ、ハ、ナ、ハ、ケ、フ、モ、カ、モ、チ、リ、マ、ス、ラ、ミ、ル、ヒ、ト、ナ、レ、

川津鳴吉野河之瀧上乃馬醉之花曾置末勿
カハツ、ナクヨシノ、カハノ、タキノウヘノ、ツ、ヒ、ノ、ハナソ、ラクニ、モ、

勤
ナキ
 春雨爾相爭不勝而吾屋前之櫻花者開始爾
ハルサメニ、アラソヒカ、子、テ、ワ、カ、ヤ、ト、ノ、サ、ク、ラ、ハ、ナ、ハ、サ、キ、ソ、メ、ニ、

家里
ケ、リ
 春雨者甚勿零櫻花未見爾散卷惜裳
ハルアメハ、イ、タ、ク、サ、フ、リ、ン、サ、ク、ラ、ハ、ナ、イ、メ、タ、ミ、タ、ク、ニ、チ、ラ、マ、ク、キ、シ、モ、

春雨者甚勿零櫻花未見爾散卷惜裳

家里

春雨者甚勿零櫻花未見爾散卷惜裳

春去者散卷惜櫻花片時者不咲含而毛欲得
見渡者春日之野邊爾霞立開艷者櫻花鴨
何時鴨此夜之將明鷺之木傳落梅花將見

詠月

春霞田菜引今日之暮三伏一向夜不穢照良

武高松之野爾

春去者紀之許能暮之夕月夜鬱東無裳山陰

爾指天一云春去者木陰多暮月夜

朝霞春日之晚者從木間移歷月乎何時可將
待

詠雨

春之雨爾有來物乎立隱妹之家道爾此日晚
都

詠河

今往而聳物爾毛我明日香川春雨零而瀧津
湍音乎

詠煙

カスカノニ オウリツツミユ フト ラミ ハルノ、 オハキ
春日野爾煙立所見 媿孀等四春野之菟芽子
採而煮良思文 ツミテニラシモ

野遊

カスカノ、 アサチカ ヲニ オモフトチマシフヲハワスラレメヤ モ
春日野之淺茅之上爾念共遊 今日忘目八方
春霞立春日野乎往還吾者相見 彌年之黃土
春野爾意將述 跡念共來之 今日者不脱 毛荒
粳 ヌカ

モ、レキノ キホミヤヒトハ イト アレヤ ヲ カサレ テ コ、ニ
百磯城之大宮人者暇有也 梅乎抑頭而此間
集有 ツトヘリ

歎舊

アユスキタルキ ヌハト レツキハ アラタ ミレトモ ヒトハ フリユク
寒過暖來者年月者雖新有人者舊去
物皆者新吉唯人者舊之應宜 モノミナハ アタラレキヨシタ、ヒトハ フリヌルノミツヨロシカルヘキ

懼逢

スミノエ ナトウエ シカハ ハルハナノ マシメツラシ キミミアヘル カ
佳吉之里得之鹿齒春花乃益希見君相有香
聞 モ

旋頭歌

カスカ ナルミ カサノ ヤミニ ツキモ イテヌ カモ サギ ヤミニ
春日在三笠乃山爾月母出奴可母佐紀山爾
サケル サクラノ ハナノ ミルヘク
開有櫻之花乃可見
シラユキノ トコレクフユハ スキニ ケラ レモハル カスミタ ナ ヒクノ
白雪之常敷冬者過去家良霜春霞田菜引野
ヘノ ウクヒスナクモ
邊之鶯鳴鳥

譬喻歌

ワカヤ トノ ケ モノノ シタニ ツキヨ サシシタコノロヨシウ
吾屋前之毛桃之下爾月夜指下心吉菫楯頃
者

春相聞

カスカ ノニヌルウクヒスナギワカレカヘリマ スホトオモヒニスワレ
春日野犬鶯鳴別春益間思御吾
フユモリハルサクハナヲ フリモチチキ ヘノカキルモコヒワタルカモ
冬隱春開花手折以千遍限戀渡鴨
ハルヤミノキリニマトヘルウクヒスモワレニマサリテモノオモハメヤ
春山霧惑在鶯我益物念哉
イテ、ミルムカヒノヲカノモトシケクサキタルハナノナラスハヤミシ
出見向崗本繁開在花不成不止
カスミタツハルノナカヒラコヒクラレヨノフケユケハイモニアヘルカモ
霞發春永日戀暮夜深去妹相鴨
ハルサレハ下ノチクサノサキク アスハノチモアヒミナナ コヒソツキモコ
春去先三枝幸命在後相莫戀吾妹
ハルサレハシ タリヤキノトソラニモイモカコ、ロニソリニケルカモ
春去為垂柳下緒妹心乘在鴨

右柿本朝臣八磨歌集出

寄鳥

ハルサレハモスノクサクキミヘストモ玉ワレハ三
春之在者伯勞鳥之草具吉雖不所見吾者見
ヤラムキミカアタリハ
將遣君之當婆

カホトリノマナクニハナクハルノクサ子ノシキコヒモスルカモ
容鳥之間無數鳴春野之草根之繁戀毛為鴨

寄花

ハルサレハ少ノハナクタレワカコエシイモウカキマアレニ
春去者宇乃花具多思吾越之妹我垣間者燕
ケルカモ
來鴨

ウメノハナサキチルソノニワレユカムキミカツカシカカタチカテニ
梅花咲散苑爾吾將去君之使乎片待香花光

フチナミノサケルハルノニハフククノシタヨノコヒハヒサレクモアリ
藤浪咲春野爾蔓葛下夜之戀者久雲在

ハルノニカスミタナヒキサクハナノカクナルマテコアハヌ
春野爾霞棚引咲花之如是成二手爾不逢君

カモ
可母

ワカセコニワカコフラクハオクヤマノツ、レノハナノイニサカリ
吾瀬子爾吾戀良久者奥山之馬醉花之今盛

有

ウメハナチヤナキニフリニセテハナニソナヘハキミニアハムカモ
梅花四垂柳爾折雜花爾供養者君爾相可毛

ヲミナヘレサクノニキツレラツ、レシラヌコトモテイハレレワカ
雄部思咲野爾生白管自不知事以所言之言

皆

梅花吾者不令落青丹吉平城之人來管見之

根

如是有者何如殖兼山振乃止時喪哭戀良苦

念者

寄霜

春去者水草之上爾置霜之消尔毛我者戀度

鴨

寄霞

春霞山棚引鬱妹乎相見後戀

春霞立爾之日從至今日吾戀不止本之繁家

波 一云片念爾指天

左丹頰經妹乎念登霞立春日毛晚爾戀度可

母

靈寸春吾山之於爾立霞雖立雖座君之隨意

見渡者春日之野邊爾立霞見卷之欲君之容

儀香

戀乍毛今日者暮都霞立明日之春日乎如何

將晚

寄雨

吾背子爾戀而為便莫春雨之零別不知出而

來可聞

今更君者伊不往春雨之情乎人之不知有名

國

ハルサメニ コロモハイタクトホラメヤ ナヌカ

春雨爾衣甚將通哉七日四零者七夜不

梅花令散春雨多零客爾也君之廬入西留良

武

寄草

國栖等之春菜將採司馬乃野之數君麻思比

日

春草之繁吾戀大海方往浪之千重積

不明公乎相見而管根乃長春日乎孤戀渡

寄松

梅花咲而落去者吾妹乎將來香不來香跡吾
待乃木曾

寄雲

白檀弓今春山爾去雲之逝哉將別戀數物乎

贈纏

大夫之伏居嘆而造有四垂柳之纏為吾妹

悲別

朝戸出之君之儀乎曲不見而長春日

九良三

問答

春山之馬醉花之不惡公爾波恩惠也所因友

好

石上振乃神杖神備而吾八更更戀爾相爾家

留

右一首不有春歌而猶以和故載於茲次

狹野方波實爾雖不成花耳開而所見社戀之

名草爾

狹野方波實爾成西乎今更春雨零而花將咲

八方

梓弓引津邊有莫告藻之花咲及二不會君若毛

川上之伊都藻之花之何時何時來座吾背

時自異目八方

春雨之不止零零吾戀人之目尚矣

吾妹子爾戀乍居者春雨之彼毛知如不

乍

相不念妹哉本名管根之長春日乎念以

春去者先鳴鳥乃鷺之事先立之君乎之將待

相不念將有兒故玉緒長春日乎念晚久

夏雜歌

詠鳥

夫舟出立向故鄉之神名備山爾明來

之左枝爾暮去者小松之若末爾里人之聞戀
麻田山彦乃答響萬田霍公鳥都麻戀為良思
左夜中爾鳴

反歌

客爾為而妻戀為良思霍公鳥神名備山爾左
夜深而鳴

右古歌集中出

霍公鳥汝始音者於吾欲得五月之坂爾

將負

朝霞棚引野邊足檜木乃山霍公鳥何時來將

鳴

旦霞八重山越而喚孤鳥吟八汝來屋戸母不

有九二

霍公鳥鳴音聞哉宇能花乃開落岳爾田草引

藏孺

月夜吉鳴霍公鳥欲見吾草取有見人毛欲得

藤浪之散卷櫻霍公鳥今城岳叫鳴而越奈利
且霧八重山越而霍公鳥字能花邊柄鳴越來

木高者曾木不殖霍公鳥來鳴令響而戀令益

難相君爾逢有夜霍公鳥他時從者今社鳴目

木晚之暮闇有爾一云霍公鳥何處乎家登鳴

渡良哉

霍公鳥今朝之且明爾鳴都流波君將聞可朝

宿疑將寐

霍公鳥花橘之枝爾居而鳴響者花波散々

慨哉四去霍公鳥今社者音之干鱉來喧響目

今夜乃於保東無荷霍公鳥喧奈流聲之音乃

遙左

五月山宇能花月夜霍公鳥雖聞不飽又鳴鴨

霍公鳥來居裳鳴香吾屋前乃花橘乃地二落

六見牟

霍公鳥厭時其菖蒲蕪將為日從此鳴度禮

山跡庭啼而香ニハキテカクシム將來霍公鳥汝鳴每無人ホト、キス ナカナクコトニナキヒトホト及忘ナキトヨニス

宇能花乃散卷惜霍公鳥野出山入來鳴令動ハナノチラマクヲミホト、キス ノニイテアニイリキ ナキトヨニス

橘之林乎殖霍公鳥常爾冬及佳度金タチハナクハアレヲウエムホト、キス ツ子ニ フユマテスニワタルカ子

雨晴之雲爾副而霍公鳥指春日而從此鳴度アニハリノクモニ タクヒテ ホト、キス カスカヲサシテコトニ ナキワタル

物念登不宿旦開爾霍公鳥鳴而左度為便無モノオモラト イ子ヌ アサケニ ホト、キス ナキテサ ワタルスヘ ナキ

左右二マテニ

吾衣於君令服與登霍公鳥吾乎領袖爾來居ワカキヌヲ キミニキセ ヨト ホト、キス ワレヲ シラセテニ

管

本人霍公鳥乎八希將見今哉汝來戀有居者モトツヒトホト、キス シヤ ミレニ ミハ イマヤ ナカクルゴヒツ

如是許雨之零爾霍公鳥宇之花山爾猶香將ク ハカリテメノ フクニホト、キス ヲノ ハナヤマニ ナラカ

鳴

詠蟬

默然毛將有時母鳴奈武日晚乃物念時爾鳴モ タメ アラム トキモ ナカナ ハヒ クラシノモノオモラトキニ ナキ

管本名

詠榛

思子之衣將搯爾爾保比與島之榛原秋オチフコノコロモスラム ヌニホヒ ヒヨシマノハキハ原アキタハス

友

詠花

風散花橘カセニキルハナタチハナヲソテニウケテ袖受而為君御跡キミタミハ、オモヒツルカモ思鶴鴨

香細寸花橘乎玉貫將送妹者三禮而毛有香カクハニキハナタチハナヲタニヌキオクラムイモハ、ミツレテモアルカ

霍公鳥來鳴響橘之花散庭乎將見人ホト、キス、キ、ナキトヨマスチハナクハナチルニハラ、ミム、ヒトヤ、タレ孰

吾屋前之花橘者落爾家里悔時爾相在ワカヤトノハナタチハナハ、チリニケリ、クヤニキトキニ、ウヘル、キ、カモ

見渡者向野邊乃石竹之落卷惜毛雨莫零ミ、ワタセハ、ハカヒノ、ヘ、ノ、ナテレコノ、チラマクツレモ、アメチ、フリ年

雨間開而國見毛將為乎故鄉之花橘者散家アメマ、アケテ、クニミ、モ、セム、シ、フルサトノ、ハナタチハナハ、

牟可聞ムカモ

野邊見者瞿麥之花咲家里吾待秋者近就良ノ、ヘ、ミレハ、ナテレコノ、ハナサキケリ、ワカニツアキハ、チカツ

思母シモ

吾妹子爾相市乃花波落不過今咲有如有與ワキモ、コニ、アフチ、ノ、ハナハ、チリスキヌ、イマサケル、コトアリソハ

奴香聞ヌカモ

春日野之藤者散去而何物鴨御狩人之折而カサカ、フチハ、チリユキテ、ナニヲ、カモミ、カリノヒトノ、オリテ

將神頭カサ、ハ

トキヲラヌタマフソ ヌケル 有
不時玉乎曾遠有字能花乃五月乎待者可又

問荅

ウノハナノ サキキルヲカニ ホト、キス ナキテ サ ヲタニキニハ キハ
字能花乃咲落岳從霍公鳥鳴而沙渡公者聞

津八

キ、ツヤ トキミカ トハセ ハ ホト、キス シノノニ ヌ
聞津八跡君之問世流霍公鳥小竹野爾所活

而從此鳴綿類

譬喻歌

橘花落里爾通名者山霍公鳥將令響鴨

夏相聞

寄鳥

ハルサレハフ カルナルノ ホト、キス ホト、キス
春之在者酢輕成野之霍公鳥保等穗跡妹爾

不相來爾家里

五月山花橘爾霍公鳥隱合時爾逢有公鴨

霍公鳥來鳴五月之短夜毛獨宿者明不得毛

寄蟬

日倉足者時常雖鳴我戀手弱女我者不定天

寄草

人言者夏野乃草之繁友妹與吾携宿者
逝者之戀乃繁久夏草乃苜掃友生布如
真田葛延夏野之繁如是戀者信吾命常有目

八方

吾耳哉如是戀為良武垣津旗丹類令妹者如
何將有

寄花

行搓爾絲叫曾吾搓吾背兒之花橘乎將貫跡

母日手

鷲之往來垣根乃字能花之厭事有哉君之不

來座

字能花之開登波無二有人爾戀也將渡獨念

爾指天

吾社葉憎毛有目吾屋前之花橘乎見爾波不

來鳥屋

ホト、キス、キ ナキトヨマスヲカヘ ナルフチナミミレハ キミハ、
霍公鳥來鳴動崗部有藤浪見者君者不來登

夜

カクレノミコラレハ クルレナテレコノ ハナニ サキイテ アサチサナ ミム
隱耳戀者苦瞿麥之花爾開出與朝旦將見

ヨソニノミミ ツ、ヤユヒム クレナサノ スエツムハナノ イロニイテス トモ
外耳見箇戀牟紅乃未採花乃色不出友

寄露

ナツクサノ ツユワケコロモキモセヌニ ワカコロモテ ノ ヒルトキモナ
夏草乃露別衣不著爾我衣手乃干時毛名寸

寄日

三十ツキノ ツチサヘサケテ テルヒ ニ モ ワカソテ ヒメ ヤ
六月之地副割而照日爾毛吾袖將乾哉於君

アハス、エテ
不相四手

秋雜歌

七夕

アノカハミツサ ヘニ テル一ナワタリヲチクヒトニモト ミコ、スヤ
天漢水左閉而照舟竟舟人妹等所見寸哉

ヒサカタノ アノカハラ ニ、ヌ、エ、トリノ ウラナキニツトモシキ、テ
久方之天漢原丹奴延鳥之裏歎座津之諸手

丹

ワカコヒクイモハ、レヒルヲ ヌクフチノ スキテクヘヒ ヤコトモ ツケニヒ
吾戀孀者知遠往船乃過而應來哉事毛告火

朱羅引色妙子數見者人妻故吾可戀奴

天漢安渡舟船浮而秋立待等妹告與具

從蒼天往來吾等須良汝故天漢道名積而叙

來

八千戈神自御世之媿人知爾來告思者

吾等戀丹穗面今夕母可天漢原石枕卷

已媿之子等者竟津荒磯卷而寐君待難

天地等別之時從自媿然叙手而在金待吾者

彥星嘆須媿事谷毛告余叙來鶴見者苦彌

夕方天印等水無河隔而置之神世之恨

黑玉宵霧隱遠朝妹傳速告與

汝戀妹命者飽足爾袖振所見都及雲隱

夕星毛往來天道及何時鹿仰而將待月人壯

天漢已向立而戀等爾事谷將告媿言及者

水良玉五百都集乎解毛不見吾者干可太奴

相日待爾

天漢水陰草金風靡見者時來之

吾等待之白茅子開奴今谷毛爾寶比爾徃奈

越方人邇

吾世子爾裏戀居者天河夜舩撈動櫂音所聞

真氣長戀心自白風妹音所聽紉解往名

戀敷者氣長物乎今谷乏牟可哉可相夜谷

天漢去歲渡伐遷閉者河瀨於踏夜深去來

自古舉而之服不顧天河津爾年序經去來

天漢夜舩撈而雖明將相等念夜袖易受將有

遙煥等手枕易寐夜雞音莫動明者雖明

相見久厭雖不足稻目明去來理舟出為牟嬈

左左始而何太毛不在者白栲帶可乞哉戀毛

不遇者

萬世携手居而相見鞠念可過戀奈有莫國

萬世可照月毛雲隱苦物叙將相登雖念

白雲五百遍隱雖遠夜不去將見妹當者

為我登織女之其屋戶爾織白布織豆兼鴨

君不相久時織服白袴衣垢附麻豆爾

天漢握音聞孫星與織女今夕相霜

秋去者河霧天川河向居而戀夜多

吉哉雖不直奴延鳥浦嘆居告子鴨

一年邇七夕耳相人之戀毛不過者夜深往父

毛

一二云不盡者佐宵曾明爾來

天漢安川原定而神競者磨待無

此歌一首庚辰年作之

右柿本朝臣人磨歌集出

棚機之五百機立而織布之秋去衣孰取見

年有而今香將卷烏王之夜霧隱遠妻手乎

吾待之秋者來沼妹與吾何事在曾紉不解在

年

年之戀今夜盡而明日從者如常哉吾戀居年

不合者氣長物乎天漢隔又哉吾戀將居
戀家口氣長物乎可合有夕谷君之不來益有

良武

牽牛與織女今夜相天漢門爾波立勿謹

秋風吹漂蕩白雲者織女之天津領巾

數裳相不見君矣天漢舟出速為夜不深間

秋風之清夕天漢舟榜度月人壯子

天漢霧立度牽牛之織音所聞夜深往

君舟今榜來良之天漢霧立度此川瀨

秋風爾河浪起暫八十舟津三舟停

天漢川聲清之牽牛之秋榜船之浪蹙香

天漢川門立吾戀之君來奈里紉解待 一去

天川河向立

天漢川門座而年月戀來君今夜會可母

明日從者吾玉床乎打拂公常不宿孤可母寐

天原往射跡白檀挽而隱在月人壯子

コノミフヘフリクルアムハ ヒコホシノ ハヤコクフ子ノ カイノ キルカモ
 此夕零來雨者男星之早榜船之賀伊乃散鴨
アノカハヤソ 世 キリアフヒコホシノ トキマツフ子ハカコクテ
 天漢八十瀨霧合男星之時待船今榜良之
カセフキテ カハ十三多子又ヒクフ子ニ ワタリモ キセヨノフケヌ マニ
 風吹而河浪起引船舟度裳來夜不降間爾
アノカハトホキワタリハ ナケレトモキミカ フナテ ハ トレニ コソマテ
 天河遠度者無友公之舟出者年爾社候
アノカハウチハニワタスイモカ イヘチ ヤマス カヨハトキマタス トモ
 天河打橋度妹之家道不止通時不待友
ツキカサ子ワカオモフイモニアルヨ ハ コノ ナスカノヨツキコ 世 又 カモ
 月累吾思妹會夜者今之七夕續巨勢奴鴨
トレニ ヨソフワカフ子コカムアノカハカセハ フクトモナミタツナ コメ
 年舟裝吾舟榜天河風者吹友浪立勿忌
アノカハ十三ハ タツトモワカフ子ハ イサコキイテムヨ ノ フケヌ
 天河浪者立友吾舟者率榜出夜之不深間爾

タ、コ ヨヒアヒタルコ ラ ニコトトヒモ イマセスレテサ ヨソアケ
 直今夜相有兒等爾事問母未為而左夜曾明
ニケル
 二來
アノカハレラナニタカクワカコルギミカ フナテ ハイソスラレモ
 天河白浪高吾戀公之舟出者今為下
ハタモノ、フミキ モテイ テ アノカハウチハニワタスキミカ コムタメ
 機蹋木持往而天河打橋度公之來為
アノカハキリタチノホルタナハタノ クモノコロモノ カヘルソテカモ
 天漢霧立上棚幡乃雲衣能飄袖鴨
イニレヘラリテレハ タ ヲ コノユヘコロモニマヒテ キニマツワレヲ
 古織義之八多乎此暮衣縫而君待吾乎
アレタマモ テ タマモ ユ ラニ フルハタヲ キミカ ミ ナレニ 又ヒ
 足玉母手珠毛由良爾織旗乎公之御衣爾縫
アハムカモ
 將堪可聞

ツキヒエリテアヒテレ アムハ カチノヲシカルキミハ アスサヘモ
擇月日逢義之有者別乃惜有君者明日副裳
カチ

欲得

アムノカハワタルセ フカミ 一子ウケテ サシクルキミカ カチノ ギトキコユ
天漢瀨深彌泛船而掉來君之楫之音所聞

アムノハラフリサケミレハ アムノカハキリタチワタルキミハ キヌラ
天原振放見者天漢霧立渡公者來良志

アムノカハセ コトニ又サヲ多テツルコノロハキミヲ サチク イセト
天漢瀨每幣奉情者君乎幸來座跡

レサカタノ アムノカハツニ フ子ウケテ キミマツヨラ ハ アケス モ
久方之天河津爾舟泛而君待夜等者不明毛

有寐鹿

アムノカハアレヌレワタルキミカ テモ イマタマカ子ハヨ ノ フケヌ ラレ
天河足沾渡君之手毛未枕者夜之深去良久

ワタリモリフ子ワタセ フト ヨフコエノ イタラ子ハ カモカチノ 支ナ
渡守船度世乎跡呼音之不至者疑櫂之聲不

為

マケ ナタカハニムキタチタリレ ソテコヨヒ マカムト オモルカヨ
真氣長河向立有之袖今夜卷跡念之吉沙

アムノカハワタルセ コトニオモヒツ、コ レクモレルレ アフラク オモハ
天漢渡湍每思乍來之雲知師逢有久念者

ヒトサヘ ヤミ ツカス アラム ヒコホシノ ツミヨフ子ノ チカツキ
人左倍也見不繼將有牽牛之孀喚舟之近附

ニクヲ 三 ツ、アルラム
往乎 一云見乍有良武

アムノカハセ フ ハヤミカモヌハタマノ ヨ ハ フケニ ツ、アハヌ ヒコホシ
天漢瀨乎早鴨烏珠之夜者闌爾乍不合牽牛

ワタリモリフ子ハヤワタセ ヒト、セニ フタ、ヒカヨフ キミニ アテナ
渡守舟早渡世一年爾二遍往來君爾有勿久

爾

玉葛不絶物可良佐宿者年之度爾直一夜耳
戀日者氣長物乎今夜谷令乏應哉可相物乎
織女之今夜相奈婆如常明日乎阻而年者將
長

天漢棚橋渡織女之伊渡左牟爾棚橋渡

天漢河門八十有何爾可君之三船乎吾待將

居

秋風乃吹西日從天漢瀨爾出立待登告許魚

天漢去年之渡湍有二家里君將來道乃不知

父

天漢湍瀨爾白浪雖高直渡來沼待者苦三

牽牛之孀喚舟之引網乃將絶跡君乎吾念勿

國

渡守舟出為將出今夜耳相見而後者不相物

可毛

ワカカクセルカチサホナクテ
吾隱有楫棹無而渡守舟將惜
八方須臾者有

待

乾坤之初時從天漢射向居而一年丹兩遍不
遭妻戀爾物念人天漢安乃川原乃有通出出
乃渡丹具穗船乃艦丹裳舳丹裳船裝真槎
拔旗荒本葉裳具世丹秋風乃吹來父丹天川
白浪凌落沸速湍涉稚草乃妻手枕迹大船乃
思憑而榜來等六其夫乃子我荒珠乃年緒

思來之戀將盡七月七日之夕者吾毛悲焉

反歌

拍錦紉解易之天人乃妻問夕叙吾裳將悵
彗星之川瀬渡左小舟乃得行而將泊河津石

所念

天地跡別之時從父方乃天驗常曰大王天之
河原爾璞月累而妹爾相時候跡立待爾吾衣
手爾秋風之吹反者立坐多土伎乎不知村肝

心不欲解衣思亂而何時跡吾待今夜此川行
長有得鴨

反歌

妹爾相時片待跡久方乃天之漢原爾月叙經

詠花

竿忘鹿之心相念秋茅子之鐘禮零所落僧惜

父去野邊秋茅子未若露枯金待難

右二首柿本朝臣人麿之謠集出

真葛原名引秋風吹每阿太乃大野之茅子花

散

鴈鳴之來喧牟日及見乍將有此茅子原爾雨

勿零根

奥山爾住云男鹿之初夜不去妻問茅子之散

又惜裳

白露乃置卷惜秋菜子乎折耳折而置哉枯

秋由蒟借廬之宿爾穗經及咲有秋芽子雖見

不飽香聞

吾衣摺有者不在高松之野邊行之者芽子之

摺類曾

此暮秋風吹奴白露爾荒爭芽子之明日將咲

見

秋風冷成奴馬並而去來於野行奈芽子花見

爾

朝采朝露負咲雖云暮陰社咲益家禮

春去者霞隱不所見有師秋芽子咲前而將挿

頭

沙額田乃野邊乃秋芽子時有者今盛有折雨

將挿頭

事更爾衣者不摺佳人部為咲野之芽子爾母

穗日而將居

アキカセハ ハヤシ アキハキノ ハナチラマクヲシニ オホロクニ
秋風者急之吹來茅子花落春惜三競竟

ワカヤトノ ハキノ ワカタ チ アキカセノ フキナムトキニ 廿カ
我屋前之茅子之若末長秋風之吹南時爾將

開跡思乎

ヒトミナハ ハキヲ アキトイフイナワレハ ヲ ハナカ スエヲ アキ
人皆者茅子乎秋云縱吾等者乎花之未乎秋

跡者將言

タミツサノキミカ ツカヒノ タ ヲ リクル コノ アキハ キハ ミ アカ
王梓公之使乃手折來有此秋茅子者雖見不

飽鹿裳

ワカヤトニ サケル アキハ キ ツ子ナラハ ワカマツヒト ミ セ
吾屋前爾開有秋茅子常有者我待人爾冷見

凌物乎

タキソナヘ ウエシ ナ レルク イテミレハ ヤト ノ ハツハ
手寸十名相殖之名知又出見者屋前之早芽

子咲爾家類香聞

ワカヤトニ ウエオホシタル アキハ キ ヲ タレカシメサス ワレニ シラ
吾屋外爾殖生有秋茅子乎誰標刺吾爾不所

知

テニトレハ ソテサヘニ ヲ ラフヲ ミナヘ レ コノ シラツユニ チ ラマク ラシニ
手取者袖并丹覆美人部師此白露爾散卷惜

シラツユニ アラソヒカ子テ サ ルハ キ オラハ フ レケム ア メナ フ リツ子
白露爾荒爭金手咲茅子散惜兼雨莫零根

ヲトメ ラニ ユ キ ア ヒノ ワ セ フ カルト キ ニ ナ リ ニ ケラ レ モ ハ キノ ハ ナ ヲ ク
媿孀等行相乃凍猶乎蒞時成來下茅子花咲

朝霧之棚引小野之茅子花今哉散盤未馱爾

戀之及者形見爾為與登吾背子我殖之秋芽

子花咲爾家里

秋芽子戀不盡跡雖念思惠也安多良思又將

相八方

秋風者日異吹奴高圓之野邊之秋芽子散卷

惜裳

大夫之心者無而秋芽子之戀耳八方奈積而

有南

吾待之秋者來奴雖然茅子之花曾毛未開家

類

欲見吾待戀之秋芽子者枝毛思美三荷花開

二家里

春日野之茅子落者朝東風爾副而此間爾落

來根

秋芽子者於鴈不相常言有者香有可聞音乎

聞而老花爾散去流

秋去者妹令視跡殖之芽子霧霜負而散來

詠鴈

秋風爾山跡部越鴈鳴者射矢遠放雲隱筒

明闇之朝霧隱鳴而去鴈者言戀於妹告社

吾屋戸爾鳴之鴈哭雲上爾今夜喧成國方可

聞

遊群

左小牡鹿之妻問時爾月乎吉三切木四之泣

所聞今時來等霜

天雲之外鴈鳴從聞之薄垂霜零寒此夜者

一云彌益益爾戀許曾增焉

秋田吾荊婆可能過去者鴈之喧所聞冬方設

而

葦邊在荻之葉左夜藝秋風之吹來苗丹鴈鳴

渡

一云秋風爾鴈音所聞今四來霜

押照難波穿江之葦邊者鴈宿有疑霜乃零爾

秋風爾山飛越鴈鳴之聲遠離雲隱良思

朝爾往鴈之鳴音者如吾物念可毛聲之悲

多頭我鳴乃今朝鳴奈倍爾鴈鳴者何處指香

雲隱良哉

野干玉之夜度鴈者鬱幾夜乎歷而鹿已名乎

告

幾年之經往者阿跡念登夜渡吾乎問人哉誰

詠鹿鳴

比日之秋朝開爾霧隱妻呼雄鹿之音之亮左

左男牡鹿之妻整登鳴音之將至極靡茅子原

於君戀裏觸居者敷野之秋茅子凌左牡鹿鳴

裳

鴈來茅子者散跡左小牡鹿之鳴成音毛裏觸

來

秋茅子之戀裳不盡者左小鹿之聲伊續伊繼

戀許增益焉

山近家哉可居左小牡鹿乃音乎聞乍宿不勝

鴨

山邊爾射去薩雄者雖大有山爾文野爾文沙

小牡鹿鳴母

足日木笑山從來世波左小鹿之妻呼音聞益

物乎

山邊庭薩雄乃禰良比恐跡小牡鹿鳴成美之

眼乎欲焉

秋茅子之散去見鬱三妻戀為良思梓牡鹿鳴

母

山遠京爾之有者狹小牡鹿之妻呼音者乏毛

有香

秋茅子之散過去者左小牡鹿者和備鳴將為

名不見者乏焉

萬葉集卷十

秋茅子之咲有野邊者左小牡鹿曾露乎別作
媀問四家類

奈何牡鹿之和備鳴為成蓋毛秋野之茅子也

繁將落

秋茅子之開有野邊左牡鹿者落卷惜見鳴去

物乎

足日木乃山之跡陰爾鳴鹿之聲聞為八方山

田守酢兒

詠蟬

暮影來鳴日晚之幾許每日聞跡不足音可聞

詠蟋蟀

秋風之寒吹奈倍吾屋前之淺茅之本蟋蟀鳴

毛

影草乃生有屋外之暮陰爾鳴蟋蟀者雖聞不

足可聞

庭草爾村雨落而蟋蟀之鳴音聞者秋付爾家

里

詠蝦

三ヨシノ、イハモトサラス、ナクカハツ、ウヘモナキケリカハヲサヤケ
三吉野乃石本不避鳴川津諾文鳴來河乎淨
カミナヒノヤマニタトヨミユクミツニカハツナクナリアキトイハム
神名火之山下動去水丹川津鳴成秋登將云

鳥屋

クサマクラタヒニモノオモワカキケハユフカタマケテナクカハツ
草枕客爾物念吾聞者夕片設而鳴川津可聞
世ヲハヤミオチタキチタルニラナニカハツナクテリアサヨヒ
瀨呼速見落當知足白浪爾川津鳴奈里朝夕
毎

カミツヒニカハツツマヨフユフサレハコロエテサムミツニカハツ
上瀨爾河津妻呼暮去者衣手寒三妻將枕跡

香

詠鳥

イモカテヲトロシノイケノトミマヨリトリノユエナクイキスミラ
妹手乎取石池之浪間從鳥音異鳴秋過良之
アキノハナカスエニナクモスノコエキクラムカカタキクワカ
秋野之草花我未鳴舌百鳥音聞濫香片聞香

妹

詠露

アキハキオキ
オキレラツコアササナタマトソヨユルオキレラツユ
冷芽子丹置白露朝朝珠斗曾見流置白露

暮立之雨落每一云打春日野之尾花之上乃

白露所念

秋茅子之枝毛十尾丹露霜置寒毛時者成爾

家類可聞

白露與秋茅子者戀亂別事難吾情可聞

吾屋戶之麻花押靡置露爾手觸吾妹兒落卷

毛將見

白露乎取者可消去來子等露爾爭而茅子之

遊將為

秋田蒨借廬乎作吾居者衣手寒露置爾家留

日來之秋風寒茅子之花令散白露置爾來下

秋田蒨若手搖奈利白露者置穗田無跡告爾

來良思

一云告爾來良思母

菜山

春者毛要夏者綠丹紅之線也爾所見秋山可

聞

詠黃葉

ツマコモルヤノカミヤマツユシモニニホヒソメタリタラマクヲシ
妻隱矢野神山露霜爾爾寶比始散卷惜
アサツユニソメハシメタルアキヤマニシクナフリソアリワタルカチ
朝露爾染始秋山爾鐘禮莫零在渡金

右二首柿本朝臣人麿之謠集出

ナカツキノシクノアメニヌレトホリカスカノヤマハ
九月乃鐘禮乃雨丹沾通春日之山者色付丹
來

カリカ子ノサキアサケノツユナラシカスカノヤマヲモミタスモノ
鴈鳴之寒朝開之露有之春日山乎公黃物

コノコロノアカツキユニワカヤトノハキノシタハ
比日之曉露丹吾屋前之芽子乃下葉者色付

爾家里

カリカ子ハイマハキナキヌワカミチレモミチハヤツケニ
鴈鳴者今者來鳴沼吾待之黃葉早繼侍者辛

苦母

アキヤマヲユメヒトカタナワスレニソノモヨキハノオモホキキミ
秋山乎謹人懸勿忘西其黃葉乃所思君

オホサカヲワカユエシハフタカミニモミチハナカレシクレフリツ
大坂乎吾越來者二上爾黃葉流志具禮零乍

アキサレハオクシラツユニワカカトノアサチカウラハイロツキ仁
秋去者置白露爾吾門乃淺茅何浦葉色付爾

家里

妹之初卷來乃山之朝露爾仁寶布黃葉之散

卷惜裳

黃葉之丹穗日者繁然鞞妻梨木乎手折可佐

寒

露霜聞寒夕之秋風丹黃葉爾來毛妻梨之木

者

吾門之淺茅色就吉魚張能浪柴乃野之黃葉

散良新

鴈之鳴乎聞鶴奈倍爾高松之野上之草曾色

付爾家留

吾昔兒我白細衣往觸者應深毛黃變山可聞

秋風之日異吹者水莖能周之木葉毛色付爾

家里

鴈鳴乃來鳴之共韓衣裁田之山者黃始有

鴈之鳴聲聞苗荷明日從者借香能山者黃始

雨

四具禮能雨無間之零者真木葉毛爭不勝而
色付爾家里

灼然四具禮乃兩者零勿國大城山者色付爾

家里

風吹者黃葉散乍小雲吾松原清在莫國

物念隱座而今日見者春日山者色就爾家里

九月白露負而足日木乃山之將黃變見暮下

吉

妹許跡馬鞍置而射駒山擊越來者紅葉散筒

黃葉為時雨成良之月入楓枝乃色付見者

里異霜者置良之高松野山司之色付見者

秋風之日異吹者露重芽子之下葉者色付來

秋芽子乃下葉赤荒玉乃月之歷去者風疾鳴

真十鏡見名淵山者今日鴨白露置而黃葉將

散

言屋戸之淺茅色付吉魚張之夏身之上爾

具禮象疑

カカリカ子ノ サムクナクヨリミツダキノ ヲカノ クスハ ハ イロツキニ ケリ
鴈鳴之寒鳴從水莖之岡乃葛葉者色付爾水
アキ ハキノ ニタハノ モミチ ハナニ ツクトキスキユケハ ノチコヒ
秋茅子之下葉乃黃葉於花繼昨過去者後將

戀鴨

アスカ カハモミチハナカカツラキノヤミノ コノハ ハ イニシ 子ルラ
明日香河黃葉流葛木山之木葉者今之散疑
イモカ ヒモトクトムスヒテ タツタ ヤマイマコソ モミチ
妹之紉解登結而立田山今許魯黃葉姊而有

家禮

カカリカ子ノ サハキニ ヨリカスカ ナルミ カサノヤマハ イロツキニ ケリ
鴈鳴之喧之從春日有三笠山者色付丹家禮

比者之五更露爾吾屋戸乃秋之茅子原色付

爾家里

コフサレハ カリノ コエユクタツタ ヤミレクレニ キホヒイロツキニ
夕去者鴈之越往龍田山四具禮爾競色付爾

家里

サヨ フケテレクレナ フリクアキハキ ノモトハ ノモミチ
左夜深而四具禮勿零秋茅子之本葉之黃葉

落卷惜裳

フレサトノ ハツモミチハシ タ ヲリモチケフ ソワカクルニヌ
古卿之始黃葉乎手折以而今日魯吾來不見

入之為

ヒトノ タメ

君之家乃之黄葉早者落四具禮乃雨爾所沾
良之母

一年二遍不行秋山乎情爾不飽過之鶴鷗

詠水田

足曳之山田佃子不秀友繩谷延與守登知金
左小牡鹿之妻喚山之岳邊在早田者不蒞霜
者雖零

我門爾禁田乎見者沙穗内之秋芽子為酢子

所念鴨

詠河

暮不去河蝦鳴成三和河之清瀨音乎聞師言
毛

詠月

天海月船浮桂檉懸而榜所見月人壯子
此夜等者沙夜深去良之鴈鳴乃所聞空從月

立度

吾背子之挿頭之茅子爾置露乎清見世跡月

者照良思

無心秋月夜之物念跡寐不所宿照尔本名

不念爾四具禮乃兩者零有跡天雲霽而日夜

清鳥

茅子之花開乃乎再入緒見代跡可聞月夜之

清戀益良國

白露乎玉作有九月在明之月夜雖見不飽可

聞

詠風

戀乍裳稻葉搔別家居者乏不有秋之暮風

茅子花咲有野邊日晚之乃鳴奈流共秋風吹

秋山之木葉文未赤者今日吹風者霜毛罽

久

詠芳

高松之此峯迫爾笠立而盈盛有秋香乃吉者

詠雨

一日千重敷布我戀妹當為暮零禮見

右一首柿本朝臣入磨之歌集出

秋田菊客乃廬入爾四具禮零我袖沾干

二

玉手次不懸時無吾戀此具禮志者者沾作

將行

黃葉乎令落四具禮能零苗爾夜副衣寒一

宿者

詠霜

天飛也鴈之翅乃覆羽之何處漏香霜之零

牟

秋相聞

金山舌日下鳴鳥音聞何嘆

誰彼我莫問九月露沾乍君待吾

秋夜霧發渡風風夢見妹形矣

秋野尾花未生靡心妹依鴨

秋山霜零覆木葉落歲雖行我忘八

右柿本朝臣人麿之歌集出

寄水田

住吉之岸乎田爾墾蒔稻乃而及蒞不相公鴨

釵後玉纏田井爾及何時可妹乎不相見家信

將居

秋田之穗上爾置白露之可消吾者所念鴨

秋田之穗向之所依片緣吾者物念都禮無物

乎

秋田川借廬作五百入為而有藍君叫將見依

毛欲將

鶴鳴之所聞田井爾五百入為而吾客有跡

妹告社

春霞多奈引田居爾廬付而秋田前左右令思

良久

橘乎守部乃五十戸之門田早稻却時過去不
來跡爲等霜

寄露

秋茅子之開散野邊之暮露爾沾乍來益玄

深去鞠

色付相秋之露霜莫零妹之手本乎不纏今夜

者

秋茅子之上爾置有白露之消鴨死猿戀爾不

有者

吾屋前秋茅子上置露市白霜吾戀目八面

秋穗乎之努爾押靡置露消鴨死益戀乍不有

者

露霜爾衣袖所沾而今谷毛妹許行名夜者

深

秋茅子之枝毛十尾爾置露之消毳死猿戀乍

不有者

秋芽子之上爾白露每置見管曾思努布君之
光儀乎

寄風

吾妹子者衣丹有南秋風之寒比來下著益
泊瀨風如是吹三更者及何時衣片數語一將
宿

寄雨

秋芽子乎令落長雨之零比者一起居而感

曾大寸

九月四具禮乃雨之山霧煙寸吾告曾誰乎見
者將息

一云十月四具禮乃雨降

寄蟋

蟋蟀之待歡秋夜乎寐驗無枕與吾者

寄蝦

朝霞鹿火屋之下爾鳴蝦聲谷聞者吾將戀八

方

寄鴈

イテ、イナハ アマトフカリノ ナキヌヘニ ケフ ケフ トイフニ
出去者大飛鴈之可泣美且今日且今日云二
トレソヘニケル
年曾經去家類

寄鹿

サヲ シカノ アサフスヲ ノノ タサワカニ カクロヒカ子 テヒ
左小牡鹿之朝伏小野之草若美隱不得而於
ニシラルナ
人所知名

サヲ シカノ ヲノ、クサフレイナシロクワカトハサルニ ヒトノ
左小牡鹿之小野草伏灼然吾不問爾人乃知

良久

寄鶴

コノヨラノ アカツキクタナクタクツノ オモヒハスキスコヒコソ マサレ
今夜乃曉降鳴鶴之念不過戀許增益也

寄草

ミチノヘノ ヲハナカ シタノ オモヒクサイマサラナニノモノカ オモハム
道邊之乎花我下之思草今更爾何物可將念

寄花

クサフカニ キリノスイタクナクヤトニハ キ ミニキミハ イツカ キ マサム
草深三懸多鳴屋前茅子見公者何時來益牟
アキツケハ ミ クサノハナノ、ア ニヌ カニオモヘト シラレ タニ アハ
秋就者水草花乃阿要奴蟹思跡不知直爾不

相存者

ナニス トカ キミヲ イトハムアキハ キノ ソノハツハナノ ウレシキ
何為等加君乎將狀秋茅子乃其始花之歡寸

物乎

コヒマロヒコヒハ シヌトモイキレロクイロニハイテレ アサカホノ ハナ
展轉戀者死友灼然色庭不出朝容貌之花

コトニイテ、イハ、イミレミアサカホノホ ニハサキイテス コヒラヌレカモ
言出而云忌染朝貌乃穗庭開不出戀為鴈

カカリカ子ノ ハツコエキ、テ サキテ タルヤ トノ アキハ キ ミキコ
鴈鳴之始音聞而開出有屋前之秋茅子見來

吾世古

サヲ レカノイルノノス、キ ハツヲ ハナイツレナ
左小牡鹿之入野乃為酢寸初尾花何時加味

之將手枕

カ スマクラニセム
コラレヒ ノケ ナカクアレハ ミ ソノフノ カラア井ノハナノ イロニイテニ
戀日之氣長有者三苑圃能辛藍花之色出爾

來

ワカサトニ イマサクハナノ フミナヘシ タヘス コハロニナホコヒニ
吾鄉爾今咲花乃女郎花不堪情尚戀二家里

ハキノ ハナサケル ヲミレハ キミミアハテ マコトモ ヒサニ ナリニケルカモ
茅子花咲有乎見者君不相真毛久二成來鴈

アサツユニ サキス サヒ タルツ キクナリヒ タルトモニケヌヘクオモ
朝露爾咲酢左乾垂鴨頭草之日斜共可消所

念

ナカキヨ フ キミニ コヒツ、イケラヌハ サキテ チリコヒハナニアラマシヲ
長夜乎於君戀不_レ生者開而落西花有益乎

吾妹兒爾相坂山之皮爲酢寸穗庭開不出戀

渡鴨

率爾今毛欲見秋茅之四槎一將有妹之光儀

乎

秋茅子之花野乃爲酢寸穗庭不出吾戀度隱

孀波母

吾屋戶爾開秋茅子散過而實成及所於君不

相鴨

吾屋前之茅子開二家里不落間爾早來可見

平城里人

石走間間生有貌花乃花西有來在筒見者

藤原古鄉之秋茅子者開而落去寸君待不得

而

秋茅子乎落過沼蛇手折持雖見不怜君西不

有者

朝開夕者消流鴨頭草可消戀毛吾者爲鴨

鶯野之尾花刻刻秋芽子之花乎直枝君之借

廬

笑友不知師有者默然將有比秋芽子乎令視

管本名

寄山

秋去者鴈飛越龍田山立而毛居而毛君乎思

曾念

寄黃葉

我屋戸之田葛葉日殊色付奴不座君者何情

曾毛

足引乃山佐奈葛黃變及妹爾不相哉吾戀將

居

黃葉之過不勝兒乎人妻跡見乍哉將有戀數

物乎

寄月

於君戀之奈要浦觸吾居者秋風吹而月斜烏

葉集卷十

五十一

秋夜之月疑意若者雲隱須與不見者幾許戀

敷

九月之在明能月夜有乍毛君之來座者吾將

戀八方

寄夜

忍笑八師不戀登為跡金風之寒吹夜者君來

之曾念

感者之痛情無跡將念秋之長夜乎寐師耳

秋夜乎長跡雖言積西戀盡者短有家里

寄衣

秋都葉爾爾寶敞流衣吾者不服於君奉者衣

毛著金

問答

旅尚襟解物乎事繁三九宿吾為長此夜

四具禮零曉月夜網不解戀君跡居益物

於黃葉置白露之色葉二毛不出跡念者事之

繁家口

雨零者瀧都山川於石觸君之摧情者不持

右一首不類秋詞而以和成之也

譬喻歌

祝部等之齋經社之黃葉毛標繩越而落云物乎

旋頭歌

蟋蟀之吾床隔爾鳴乍本名起居管君爾戀

宿不勝爾

皮爲酥寸穗庭開不出戀乎吾爲玉蜻直一目耳視之人故爾

冬雜歌

我袖爾電手走卷隱不消有妹爲見

足曳之山鴨高卷向之木志乃子松二三雪落

來

卷向之檜原毛末雲居者子松之末由沫雪

足引山道不知白杜枝枝母等乎爾雪落者

或云枝毛多和多和

右柿本朝臣人磨之歌集出也但一首

或本云三方沙彌作

詠雪

奈良山乃峯尚霧合宇倍志社前垣之下乃雪
者不消家禮

殊落者袖副沾而可通將落雪之空爾消二

夜乎寒三朝戸乎開出見者庭毛薄大良爾三

雪落有 一云庭裳保杼呂爾雪曾零而有

暮去者衣袖寒之高松之山木每雪曾零有

吾袖爾零鶴雪毛流去而妹之手本伊行觸

沫雪者今日者莫零白妙之袖纏將千人毛

有惡

甚多毛不零雪故言多毛天三空者隱相管

吾習乎且今且今出見者沫雪零有庭毛保

杼呂爾

足引山爾白者我屋戸爾昨日暮零之雪疑意

詠花

誰苑之梅花毛久堅之清月夜爾幾許散來

梅花先開枝手折而者裏常名付而與副手

香聞

誰苑之梅爾可有家武幾許毛開有可毛見

欲左右手二

來可視人毛不有爾吾家有梅早花落十方吉

雪寒三咲者不開梅花縱比來者然而毛有金

詠露

為妹末枝梅乎手折登波下枝之露爾沾家類

可聞

詠黃葉

八田乃野之淺茅色付有乳山峯之沫雪寒零

夏之

詠月

左夜深者出來牟月乎高山之峯白雲將隱鴨

冬相聞

零雪虚空可消雖戀相依無月經在
沫雪千里零敷戀為來食永我見悵

右柿本朝臣人麿之歌集出

寄露

咲出照梅之下枝置露之可消於妹戀頃者

寄霜

甚毛夜深勿行道邊之湯小竹之於爾霜降後
鳥

寄雪

小竹葉爾薄太禮零覆消名羽鴨將忘云者益

所念

霰落板敢周吹寒夜也旗野爾今夜吾獨寐牟
若名張乃野木爾零覆白雪乃市白扇將戀吾

鴨

一眼見之人爾戀良久天霧之零來雪之可消

所念

思出時者為便無豐國之木綿山雪之可消

念

如夢君乎相見而天霧之落來雪之可消

吾背子之言愛羨出去者裳引將知雪勿零

梅花其跡毛不所見零雪之市白兼名間使

者 一云零雪爾間使遣者其將知名

天霧相零來雪之消友於君合常流經度

窺良布跡見山雪之灼然戀者妹名人將知

聞

海小船泊瀨乃山爾落雪之消長戀師君之音

曾為流

和射美能嶺往過而零雪乃狀毛無跡白其兒

寄花

ソカヤト ニ 廿キタルラメヲ ツクヨヨ ヨ ミ ヨナク ミ セム キ ミヲ
吾屋戸 爾開有梅乎月夜好美夕夕令見君乎

ノ ミ ヲヤ
祚待也

寄夜

アヒヒ キ ノ ナ ベレタカセハ フ カ子トモ キ ミナキヨヒハ カ 子 ノ 身 ノ 心 ト 毛
足繪木乃山下風波雖不吹君無夕者豫寒

萬葉集卷第十

